

## 芥川下流域(大阪府高槻市)におけるナイルティラピアの記録

高槻市立自然博物館(あくあびあ芥川)

花崎 勝司

芥川(大阪府高槻市)は淀川水系の 1 支川で淀川右岸側に合流する一級河川である。ここ芥川において 2014 年に 3 個体、2016 年に 1 個体、カワスズメ科魚類が記録された。これらについて、我が国に定着している近縁他種との識別点となる背鰭棘条数と下枝鰓耙数の計数、体側と尾鰭の横帯の有無等について確認したところ、これらは全てナイルティラピア *Oreochromis niloticus* に同定された。

ナイルティラピアはアフリカ大陸西部、ナイル川水系、イスラエルを原産地とするスズキ目カワスズメ科魚類であり、1962 年にエジプトから我が国に導入された。鹿児島県の池田湖はその導入水域の一つとして知られており、1977 年と 1978 年に鹿児島県水産試験場による養殖実験対象魚として網生け簀で飼養されていたが生け簀網破損などの事故などにより逸出し、定着したとされる。現在における本種の分布域は、北海道阿寒国立公園のオンネトー湯の滝、山梨県石和町、静岡県下田市と伊東市、大分県別府市、鹿児島県指宿市など温泉排水が影響すると考えられる水域や、熊本県江津湖や上記の池田湖など湧水のある湖沼、愛知県荒子川のような温排水の流入する水路、あるいは周年温暖な気候である沖縄島の諸河川などである。本種の生息適水温は 24~30°C とされるが、冬季においてもその水温が上記したような温水の供給により周辺環境よりも高水温が維持される水域では、そこを越冬場として利用し、夏季を中心とした時期、もしくは周年、生息適水温であれば季節に関わらないとされる繁殖活動と相まって定着するものと思われる。

今回の記録個体は全て淀川合流点から約 2 km 上流までの区間で採集され、体長範囲は 69.8-101.0 mm であった。芥川では、これまで本種の記録はない。しかしながら、芥川下流域周辺の市街域における水路の 1 地点において 2009 年 11 月に当歳魚と推測される 2 個体(体長 23.2 & 31.2 mm) が採集記録されている。また、この 2 個体の採集時には、本種の成魚と考えられる体長 30~40 cm 程度の個体が 10 個体以上の群れで遊泳している状態が目視確認されている。しかしながら本市街域水路における定着状況や越冬場の有無などについては不明である。芥川を含む淀川水系や大阪府下における本種の記録はきわめて少ないと考えられるため、一つの採集事例として発表する。

第 12 回 外来魚情報交換会

2017 年 1 月 28 日 草津市立まちづくりセンター